

特集

# 長崎大学

# から

# 世界へ

長崎大学にはさまざまな留学・海外実習のプログラムがあります。夏休みや春休みを利用した短期語学留学、世界中の大学との交流協定をベースとした中・長期の交換留学、そして各学部や研究科の専門性を活かした海外プログラム等、目的も期間も内容も多種多様です。奨学金等のサポートも手厚く、支援システムが整っており、海外にチャレンジしています。

大学時代の海外経験は、人生の大きな財産。

さあ、あなたも長崎大学から世界を目指してみませんか？



## To the World







# 海外留学で実感する

インタビュー

## 山下俊一

### 「百聞は一見に如かず」

### 目指すのは

### グローバル感覚を持った社会人

理事(国際附置研究所担当)・  
国際教育リエゾン機構長

一九七八年長崎大学医学部卒業。二〇〇四年より二年間、世界保健機関(WHO)ジュネーブ本部で放射線プログラム専門科学官を務める。二〇一一年の原発事故後は福島県放射線健康リスク管理アドバイザーに就任。その後長崎大学に戻り、二〇一三年より現職。

世界とつながっていた長崎  
先人たちの志を学生に  
継続してほしい

長崎大学は、ディプロマ・ポリシーの中で、「地球環境と社会の多様性を理解している」「地域社会および将来世代に貢献するグローバルな視点を身につけている」といった方針を掲げています。その具体的な人材育成について、山下俊一理事にお話を伺いました。

「『井の中の蛙 大海を知らず』という言葉がありますが、それでは今の世の中を渡っていきません。急速にグローバル化するこの現代社会で活躍できる人材を育成することが大学に強く求められています」

プログラムがありました。また、二〇一四年に誕生した多文化社会学部は、グローバル人材育成のリーディングモデルとして機能しています。リエゾン機構としては、長崎大学の学生全体のグローバル化を目指し、全学的に引き上げていく存在でありたいと考えています」。

大学が用意する  
留学への踏み台で  
夢の、その先へ

平成二十七年、全学の学生が特別なプログラムで英語を学べる新しいグローバル教育コースができたこと聞きました。「『長崎グローバル+コース』ですね。留学したい、あるいは英語力をもっと向上させたいという学生のための学部横断型の特別教育プログラムです。米国のモンタナ大学から英語教授法の専門ス

ます。それは喫緊の課題でもあります。長崎は、長い鎖国時代に世界への窓口として機能した都市です。この街の先人たちの精神を学生に継承してほしい。それが長崎大学の基本的な考え方です。大切なのは、玉石混交の大量の情報の中から真実を見極める力。多様な情報に触れるためにも英語力を磨き、情報を収集して判断するスキルを磨いてほしいのです」。

大学の中の組織も、海外からの留学生の受け入れが中心だった「留学生センター」を、二〇一三年より「国際教育リエゾン機構」(以下、「リエゾン機構」)に生まれ変わらせ、日本人学生を海外に派遣するプログラムにも力を入れるようになりました。

「これまでも学部単位で国際交流プロ

キルを持ったインストラクターを三名招聘して授業を行い、英語力を磨きます。その上で、長崎を発信するというテーマで英語による講義を留学生と共修するという一年半のコースです」。

コースの第一期生はTOEFL ITPのスコアが飛躍的に伸びたそうですね。

「はい。最初は英語が得意ではなくても積極的に学ぶことのできるこういった仕組みを踏み台にして、世界に飛び立ってもらいたいと思っています。専任スタッフが担当する留学相談窓口『ELOUNGE』(P5)や、誰でも気軽に参加できるイングリッシュカフェ(P5)なども設けています。長崎大学からは現在、年間四百〜四百五十人の学生が海外研修や留学を体験していますが、大学としては、今後四年間でこの数をどんどん増やすことを目標に掲げています」。

すると、かなりの数の学生に留学するチャンスがあるということですね。

「長崎大学と交流協定を結んでおり交換留学が可能な大学や研究機関は現在、世界中で百五十を超えています。単位互換の整備も進んでおり、学部独自のプログラム(P6)に参加する学生も多いですよ。もちろんお金がかかりますが、長崎大学海外留学奨学金や日本学生支援機構(JASSO)などの支援システムも活用できます(P8)。最近では、国の『官民協働海外留学支援制度』トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム』(P8)に応募して厳しい選考を突破し、長期の留学を実現させた長大生も増えてきました」。

頼もしいですね!

「吉田松陰が言ったとされる言葉に『夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし』というものがあります。松下村塾でその教えを受けた弟子たちが、世界に

出て明治維新を担ったのはそのためです。学生諸君に、まずは夢を見てほしい。そしてチャレンジしてほしい。自己改革はそこから始まります。海外に出て、目からうろこが落ちる体験をして『百聞は一見に如かず』を実感してほしい。逆境でも打たれ強い精神を身に付けてほしい。そのために、経験豊かな教職員陣をそろえて、あらゆるサポートをします。高校まではなかなか自分の人生や教育環境を選べなかったかもしれませんが、しかし、大学からは新しい出会いで良い人脈や刺激的な人間関係を築くことも可能です。私たち長崎大学の最終目標は、グローバル感覚を持った市民を一人でも増やしていくことです」。

かつて、世界中から流れ込んでくる情報や知識を学ぶために全国から人が集った長崎。世界とつながることで自己改革を成し遂げる精神は、長崎の空気や人の志に今も息づいています。

## 長崎にいながら 英語圏の大学と同じ 国際標準の授業を体験

平成27年度にできた長崎グローバル+コースは、どの学部生でも受けられる学部横断型の1年半の特別教育プログラムです。学部、学科の枠を超えたクラスとなっており、ゼミ形式で講義が行われますが、特徴は何といても1年目のSCAS(Special Course in Academic Skills)があることです。米国のモンタナ大学から招聘した3名の英語教員はすべて「TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages. 英語が母国語ではない人々向けの英語教授法)」の資格を有しており、長崎にいながら英語圏の大学と同じ環境で国際標準の英語授業を受けることができます。その上合宿形式のイングリッシュキャンプなどを体験しながら、アカデミックスキルを身に付けていきます。2年目は留学生との共修で、講義はすべて英語で行われます。

受講生はTOEFL ITPを無料で4回受験することになっており、留学する場合の奨学金優先措置が受けられるというメリットもあります。1期生はTOEFL ITPのスコアが平均23.65点伸び、中にはTOEICのスコアが300以上も上がった学生もいます。留学の準備として最適なのはもちろん、英語力を磨くことで新たな世界が広がり、大学生生活も豊かになります。



モンタナ大学のインストラクターによる英語授業を受けることで留学にも前向きになれます。



# 学部独自の留学プログラム

- 二〇一六年度のプログラム
- 米国での「海外インテンシブプログラム」(対象：一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)
- 海外七大学での「リサーチセミナー」(対象：三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)
- 海外七大学での「高次臨床実習」(対象：一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)
- 医歯薬学総合研究科「リーディングプログラム」による中・長期留学

グローバル化は医療の世界も例外ではありません。長崎大学病院国際医療センターの泉川公一教授のお話です。「外国人患者への対応はもちろん、近年は海外の研究者との共同研究や、先進医療技術を途上国で教えるケースも増えました。国際的な現場で活躍できる医師の養成は大きな課題の一つです」。そこで医学部では、一年次から大学院生までを対象とした多彩なプログラムを用意しています。「海外インテンシブ」



各国の医大生との交流を通じて学ぶこともたくさん。

## 医学部 海外で活躍できる 医師を育成

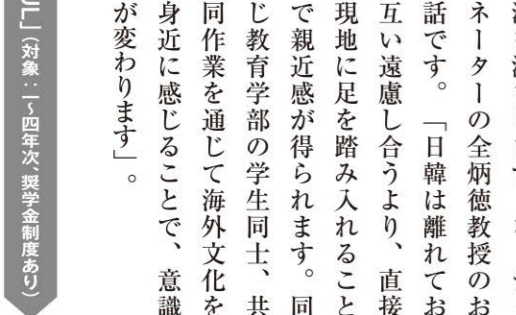
「グローバル化は医療の世界も例外ではありません。長崎大学病院国際医療センターの泉川公一教授のお話です。「外国人患者への対応はもちろん、近年は海外の研究者との共同研究や、先進医療技術を途上国で教えるケースも増えました。国際的な現場で活躍できる医師の養成は大きな課題の一つです」。そこで医学部では、一年次から大学院生までを対象とした多彩なプログラムを用意しています。「海外インテンシブ」



フランスのアンジェ大学に留学した辻田啓子さん(P12でも紹介)。

- 二〇一六年度のプログラム
- 韓国への短期演習「STEP IN SEOUL」(対象：一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

海外実習のチャンスもあります。海外七大学で二名まで、希望する診療科の病棟で四週間の臨床実習が可能です。その他にも、大学院では、医歯薬学総合研究科の「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」(リーディングプログラム)が中・長期留学に対応しています。



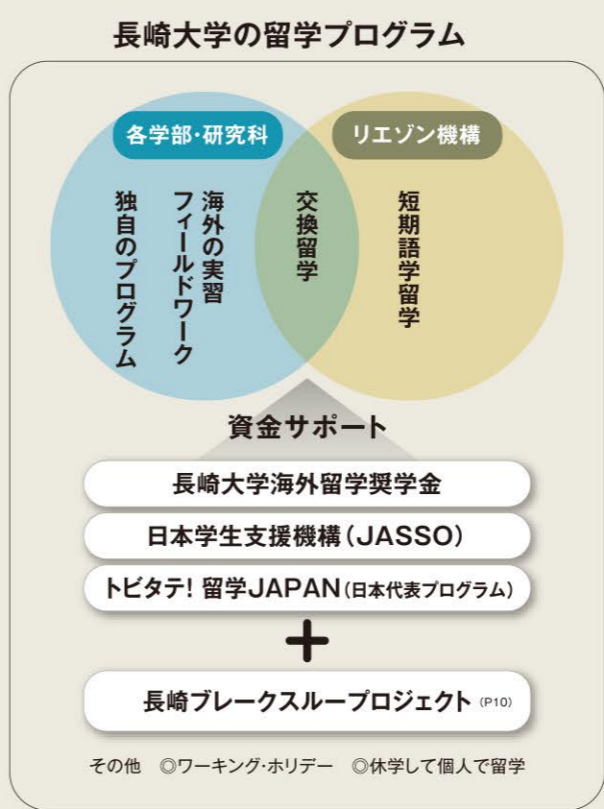
自ら授業計画を立て、ソウルの子どもたちに日本文化を紹介する学生たち。

## 教育学部 教育を通じた 日韓の異文化理解

教育学部では国際理解教育演習「STEP IN SEOUL」という国際的なプログラムが十四年も続いています。このプログラムは一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百)

# 国際教育リエゾン機構

長大生と世界をつなぎます



長崎大学の国際交流プログラムは各局(学部、研究科など)の動きと全学的な動きが複雑に絡み合っていますが、それらの交通整理をしながら、学生と世界をつなぐ役割を担っているのが国際教育リエゾン機構です。特に短期語学留学や交流協定に基づく交換留学はこちらが窓口です。リエゾン機構のウェブサイトでは、短期語学留学、協定に基づく交換留学についてそれぞれ分かりやすく解説しています。海外留学ガイドブックも作成しており、留学実現までのロードマップでは、情報収集(出願・入学審査)手続き(渡航準備)などの一連の流れが分かり、計画立案に役立ちます。ちなみに、今年から交換留学の学生を決定する過程で、面接による「学内選考」が加わり、協定校で単位を修得するプログラムです。大学の代表として派遣するにふさわしいと判断されなければ推薦されません。自覚の高さと明確な目的意識が求められます。



リエゾン機構発行の留学ガイドブック

**イングリッシュカフェ**  
初級・中級・上級に分かれて英語ネイティブの先生と気軽に会話  
同じく学生交流プラザで毎週木曜の16時10分から行われているのがイングリッシュカフェ。こちらは言語教育研究センターが運営しており、コーヒーなどを飲みながらネイティブの先生や留学生と気軽に会話するものです。毎回15~16人が、初級・中級・上級に分かれて参加しています。例えば、初級は趣味や日常生活などのカジュアルな話題、上級になると留学生も交じって原子力政策や環境問題といったディスカッションが繰り返されます。

**E-LOUNGE 英語学習支援室**  
留学に関する疑問に的確なアドバイス  
「留学はしてみたいけれど何から始めていいのかわからない」、「英語に自信がない」、「ビザ取得などの手続きが不安」、「ワーキングホリデーの情報ほしい」など、留学に際しては何かと疑問が付きもの。そこで文教キャンパスの学生交流プラザには、リエゾン機構によるE-LOUNGEが毎週火・木・金曜の12時から17時に開設されています。常駐する宮脇恵美さんは、自身も留学経験があり、英語教育のキャリアも長い専任スタッフ。さまざまな疑問や不安に応じてくれます。「例えば休学して留学する場合、これまではすべて自分でやるしかなかったのですが、手続きや情報の入手法のアドバイス、留学に向けての英語学習支援など、できる限りサポートします」と宮脇さん。毎週金曜はミニトークなどのイベントもあり、気軽に飛び入り参加できます。



ミニトークはお互いの自己紹介から始まるテーマに沿った英会話。言葉に詰まっても、宮脇さんが笑顔でサポート。



# 高い語学力と専門性を磨く

多文化社会学部の場合、四年間のカリキュラムの中に、異文化体験や留学が組み込まれています。入学すると、原則として一年生全員が留学生と共に生活する学生寮に入り、段階的に目標を設定した英語力養成プログラムにより、徹底的に英語を学びます。次に、英語能力の向上と異文化への関心を高めることを目的として、一年次で全員が学部独自の短期語学留学を経験します。その後、「オランダ特別コース」では三年次に全員がライデン大学に留学

するほか、他コースでも二年次以降の中・長期留学を推奨しています。中・長期留学では、学部で学んだ専門知識を海外でさらに展開し理解を深めることを目的としているため、語学留学ではなく留学先大学の正規の授業を受講して単位を取得します。これまでの実績では、一学年のうち三分の一以上が中・長期留学を経験しました。また、主管学部として交流協定を結んだ大学も十七カ国五十校以上と他学部と比べ飛び抜けています。留学相談に対応でき

る学部専任の国際交流ディレクターがいるのも、多文化社会学部ならではの強みです。留学以外にも、アジアやアフリカでのフィールドワークやインターンシップなど、世界を舞台にした実習のプログラムがあります。



専任の国際交流ディレクター初見かおりさん。米国のリベラルアーツカレッジで文化人類学を教えていたキャリアの持ち主です。協定校の開拓をはじめ、学生の留学相談に乗っています。「危機管理はもちろん、授業の選択の仕方や生活ルールなどもアドバイスします。皆さんが希望を持って留学できるようにお手伝いします」。

二〇一六年度のプログラム  
留学生との共同生活を体験する一年間の学生寮生活(対象：一年次)  
英語圏への三〜四週間の短期留学(対象：一年次、奨学金制度あり)  
交換留学による中・長期留学(対象：二年次以上、奨学金制度あり)  
海外フィールドワーク、インターンシップ

カナダへ短期留学したときの様子。



アフリカ・ザンジバルで行われたフィールドワーク。



オーストラリアではカンガルーとのふれあいも楽しみです。

## 環境科学部

# 国際交流を通して 環境問題を掘り下げる

自然に恵まれ、地熱や水資源など環境科学の研究に役立つ教材が揃っている長崎は、海外の大学からの関心も高いといわれています。そこで、長崎に来た留

六つの大学から受け入れた留学生と環境科学部の学生が夏休みの間、長崎各所で共修する「サマースクール」に始まり、今度はその留学生たちの大学へ、こちらから学生を派遣し、共に学ぶという相互交流の仕組みです。国際交流委員の中川啓教授のお話です。「今年で五年目です。短期派遣された学生は報告会を新入生に対して行うことで次の学年に引き継がれます。環境科学部は文理融合をうたっており、このサマースクールや短期派遣は文系と理系の教員が担当することで、文理両方の視座を備えた国際

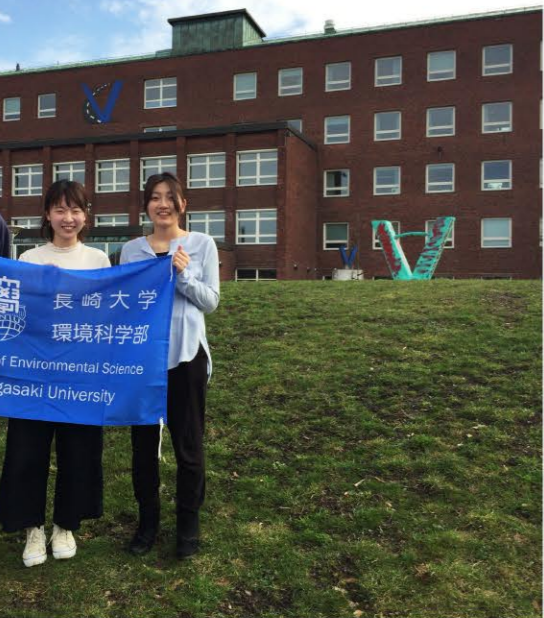
環境エキスパートを育てることを目標としています。オーストラリアのRMIT大学、英国のランカスター大学との協定締結も予定しており、交流校は今後もさらに増えます」。

参加する学生同士、顔の見える距離感で接することから、コミュニケーションも深まります。

長崎大学から世界へ



ルンドで環境をテーマに英語でプレゼンテーションする邊木萬那さん。



スウェーデン・ルンド大学へは昨年度は2名行きました。

「サマースクール」(全年次、大学院短期派遣(協定派遣)(対象：一年次、奨学金制度あり))



タイでは本国の大学生と調査や実習を行った橋本歩実さん。

# Q&A

留学に関する  
疑問にお答えします

**Q** 留学の費用はどのくらいかかりますか？

**A** 留学費用の主なものは渡航費、宿泊費(寮などが多い)、授業料(協定に基づく交換留学を除く)などです。これらは期間と行き先で大きく異なります。例えば、三〜四週間の短期語学留学の場合(二〇一六年実績)、中国で約十五万円、韓国で約十七万三千円、米国で約四十五万円、フランス/ドイツで約三十五万円〜四十万円。これに現地での食費やお小遣いなどが加わります。

**Q** 奨学金制度はあるのでしょうか？

**A** 長崎大学から留学する学生には、金銭的にも手厚いサポートを実施しています。長崎大学海外留学奨学金や、プログラムごとに学部が申請する日本学生支援機構の返済不要の奨学金などを利用できます。その他、各種奨学金からの奨学金もあります。これらは成績などの条件があり、プログラムのオリエンテーションで説明されます。また、学生個人が留学計画などを提示して申請し、審査に通ればもらえる奨学金として「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」(二〇一四年にスタートした官民協働の支援制度)があります。派遣される学生には返済不要の手厚い奨学金が提供されるものですが、長崎大学にもこの「トビタテ!」の審査に合格して留学の夢を実現させた優秀な学生が多くいます。



# GSRマインドを持った 経済人の育成

経済学部のプログラムのキーワードは「GSR (Global Social Responsibility) マインド (地球規模の課題に利害対立を超えて解決を目指す志)」。まず一年次の前期で、前記マインドを実

践している企業やZOOMなどを招いて行なわれる「国際関係概論」を学び、一年後期から「国際ビジネス(Intl)プログラム」が始まります。これは希望者が参加する特別プログラムで、少人数制



米国カリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校のキャンパスにて。



サンフランシスコの金門橋を背に(短期海外研修米国)。

フィリピンで発表の準備(GSR短期海外研修)。

で主にネイティブ講師による英語力向上を目的とした科目群、ネイティブ講師による経済・経営・会計に関する講義、留学生との共修ゼミなど、カリキュラムはハード。それでも、このプログラムがあるから長崎大学経済学部を選んだ、という学生も多いのだそうです。留学プログラムとしては、一年次三月のGSR短期海外研修のほか、主に三年次の交流協定締結大学への留学があります。後者については、昨年来、「エラスムス・プラスプログラム」というEC圏内大学との交流プログラムが複数の大

学との間で採択されており、それらの大学への派遣学生の渡航費や滞在費の補助を得られるようになっていきます(ただし英語能力の要件あり)。他方、修士課程では、西南財経大学(中国)とダブルディグリープログラム(複数学位制度)を結んでおり、これに今後は国立東華大学(台湾)が加わる予定です。また、すべての学生を対象にした、派遣先大学での英語による講義、現地の日本企業などの訪問や学生交流を行う「短期海外研修」や「中国会計制度論」も準備しています。



米国でのGSR海外短期研修の1コマ。

# 乗船実習で海外へ 海洋研究に国境はない

海外の大学と共同研究を行う先生方も多く、大学院の結び付きも深い大学院水産・環境科学総合研究科には、海外へ行くチャンスが多くあります。台湾の二大



航海中はトロール漁実習も行います。

海洋科技大学、博士後期課程・国立台湾海洋大学)を結んでおり、長崎大学とこれらの大学の学位を取得することができま

す。また、博士前期課程では台湾へ、博士後期課程では韓国へ、大学の練習船で航海する実習があります。これらの実習では、現地の協定校と同シンポジウムを開催して自分の研究をプレゼンテーションすることも大きな目的の一つ。使用するボスターは日本で制作し、航海中には海洋観測などの実習に加えて発表練習をしながら現地入り。自身の研究

テーマや成果を英語で説明し理解を得る貴重なトレーニングとなっています。また、韓国への海洋実習には海技士を目指す水産専攻科進学予定の学部生も同乗し、水先案内人や港湾施設とのやりとりなど、国際航海について学ぶ機会となっています。



台湾の国立台湾海洋大学では合同プレゼンテーションを開催。



現地では大学や海洋施設、水族館の見学もカリキュラムの一つ。



長崎丸での航海は、デッキ磨きから船上での講義までぎっしり。環境科学部から研究科に入った学生にとっては新鮮な体験も。



長崎大学から世界へ



## Q & A

**Q** 交換留学にチャレンジしたいのですが、協定校ならばどこでもOK?

**A** 長崎大学が交流協定を結んでいる学校は世界四十八カ国百五十以上あります。しかしその協定を結んだ学部・研究科(主管部局)の学生が優先的に派遣されるため、まずは協定校の主管部局を確認しましょう。それから自身の学びたい科目やテーマが相手校で学べるかどうか大きなポイント。また、交換留学としての入学条件も協定校によって違うので、必ず入学条件を確認しましょう。いずれも、学部・研究科の留学担当やりエゾン機構が窓口になっています。

**Q** 長崎県に新しい留学プロジェクトが誕生したと聞きました。

**A** 「長崎ブレイクスループロジェクト」ですね。県内の産学官で運営する長崎留学生支援センターと長崎県が中心となったもので「トビタテ!留学JAPAN」地域人材コース」として、今年度から始まりました。長崎県内の産業を活性化させるテーマについて奨学金を得た学生が海外で調査し、その結果を持ち帰って企業に提案するという企画です。長崎大学や長崎県立大学など県内十一の大学と高専の学生が対象です。初回は、①長崎の日本酒をインドに売り込むこと、②東南アジア諸国連合(ASEAN)でビジネスを展開すること、③中国・韓国からのインバウンド客を増やすことといった課題が選択されています。今後三年間のプロジェクトです。

長崎留学生支援センター  
TEL/0958192244  
(長崎大学国際教育リエゾン機構内)



# 学生インタビュー



辻田啓子さん(医学部5年)

## フランス・アンジェ大学へ半年間

ちょうどフランスのアンジェ大学との交流協定が締結されたばかりで、第1号の交換留学生で半年間行きました。結局3年生を2回やることになりましたが、1年くらいはいいかなと決意。あちらでは学期ごとにEU各国の学生が国境を越えて頻繁に行き交っています。各国の医学生と話すことで、医師の立場や医療法、保険制度などが違うことを知って驚きました。主に微生物学の勉強をしました。フランス人の医学生と一緒に、感染症の中でも薬が効かない菌種に対して新しい薬を作ろうという研究を行いました。休みにはみんなで旅行もできました。みんなジブリが大好きで「紅の豚」の話で盛り上がり、見ていなかった私はあきれられました。6年次に海外での高次臨床実習の機会があるので、もう一度リベンジしたいです。知識がないことで伝えきれない部分もあったので、次はもっと学びたいです。「視野が広がる」なんて言葉では言い足りないくらい、論文を基にしたディスカッションの仕方からおいしいワインとチーズの選び方まで豊富な経験ができ、留学で大きく成長できたと思います。

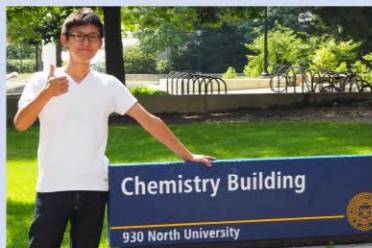


平田剛輝さん(大学院工学研究科卒業)

## 米国ミシガン大学へ半年間

私は工学研究科の「5年一貫グリーンシステム」のカリキュラムの中で、米国に半年間行きました。私の専門は有機合成化学で、パラジウムという触媒の使い道の研究です。受け入れ先は周期表でパラジウムと同族のニッケルを研究しており、特性が似ているのでヒントもたくさんありました。

行く前は手も足も出ないのではないかと恐ろしかったのですが、意外と通じると実感しました。英語が多少スムーズでなくても化学式を書けば理解し合えるし、意見も受け止めてもらえます。印象的だったのは、ちょっと座って休憩していたら「何をやってるんだ、仕事しろ」と同世代の大学院生から言われたこと。大学院生はもう仕事の一環という意識があるのです。留学を考えるなら、情報は自分で集める、そして聞く力を鍛えることが大切だと思います。相手の言葉さえ分かれば何とかできます。私自身は留学を経験したことで、遠慮せず人に話しかけられるようになりました。



12

### 工学研究科

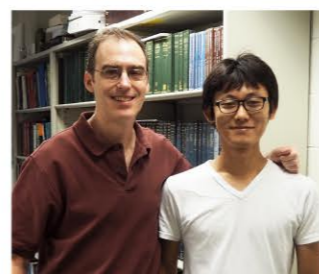
## 専門性に特化した学びを極める

まず日本で基礎をじっくり学び、自身の専門性やテーマを決めてから、それに沿って海外での学びの経験を積むというのが工学研究科の考え方。従って大学院では研究室単位で世界各国の大学とのネットワークを利用して、短中期の留学ができます。その場合、日本学生支援機構(JASSO)などの奨学金を利用して留学する学生も多いのだそうです。また、狭き門ながら手厚い奨学金と研修を受けられる「トビタテ! 留学 JAPAN」に選ばれて中・長期(合工学専攻)の学生を対象と



キャンパスアジア事業で協定を結んだ韓国の成均館大学は、朝鮮王朝時代の王族に帝王学を教えた創立600年以上の歴史を誇る私立大学です。ここで先進的な水環境や水資源の授業を受けることができます。

の留学を実現させた学生も近年増えてきました。その他、大学院の「5年一貫グリーンシステム創成科学専攻」の中には三カ月以上の留学がカリキュラムに必修科目として組み込まれています。また、昨年度採択された「大学の世界展開力強化事業(キャンパス・アジア事業)」では、長崎大学、韓国の成均館大学、中国の山東大学の三つの大学で学生を交換留学させるプロジェクトがスタートしました。これは博士前期課程(総合工学専攻)の学生を対象と

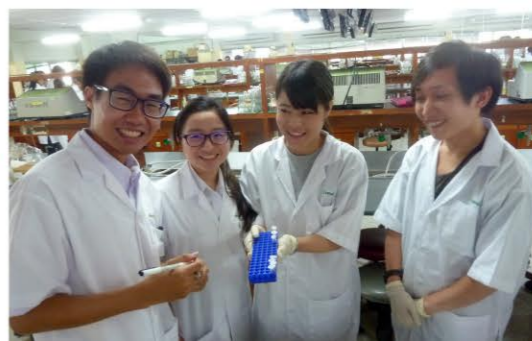


P12で紹介している平田剛輝さんの米国ミシガン大学での様子。現地の研究者と共に。

### 薬学部

## 世界に目を向ける「くすり」のスペシャリスト

海外からの留学生が多い薬学部は、研究室でのセミナーの質疑応答など日常的に英語が飛び交うこともしばしば。薬学の専門知識を英語で学ぶことも重要視されています。薬剤師の国家試験でのライセンス取得を目指す薬学科(6年制)の場合、高学年の教名が台北医学大学での短期トレーニングプログラムに参加しています。これには台湾の病院見学や英語での医療薬学講義が組まれています。また、創薬の研究者や技術者を指す薬科学科(4年制)から大学院に進学した場合、タイのチュラ



タイのチュラロンコン大学で実習中の様子。

ロンコン大学で10日間の「天然薬用資源に基づく創薬研究」という短期研修プログラムがあります。これは天然資源の活用がさかんなタイで植物などの組織を採取して顕微鏡で調べる実習なども含まれています。現地の学生と共同で取り組むため、コミュニケーションは英語。参加した学生は「最初は不安でしたが、何とかなるものだと思いました。将来、就職して海外へ行くのも面白いかもしれませぬ」と語っています。

### 歯学部

## 海外でもニーズの高まる歯科の世界

歯学部ではAO入試選抜者は歯学研究コースを履修し、その後は大学院で分野の研究を行うことになっています。このコースの学生は、「AO入試入学者に対する研究養成プログラム」による「歯学研究コース学生研

究発表会」で研究成果を英語でプレゼンテーションする機会が与えられます。この発表会で優秀な成績を収めた学生三名は短期海外留学に行くことができます。行き先は米国や中国などの交流協定を結んでいる大

二〇一六年度のプログラム

AO入試入学者に対する研究養成プログラム(対象:AO入試入学者、奨学金制度あり)

二〇一六年度のプログラム

5年一貫グリーンシステム創成科学専攻の中期留学(対象:大学院、奨学金制度あり)

各研究室から行く留学(奨学金制度あり)

タイでの短期研修(対象:大学院、奨学金制度あり)

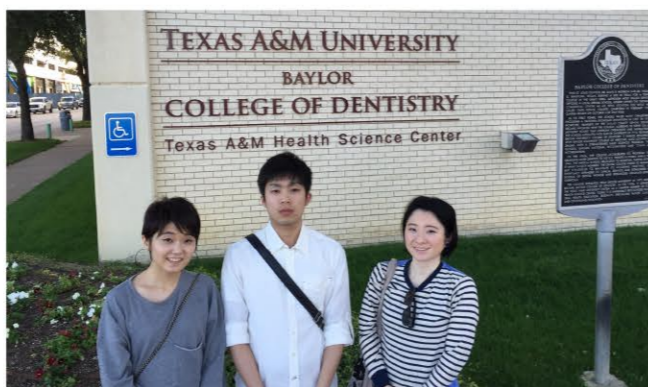
二〇一六年度のプログラム

台北での短期トレーニングプログラム(対象:薬学科6年次、奨学金制度あり)

長崎大学から世界へ



る渡邊郁哉教授(生命医科学域)のお話です。「歯科の研究者や歯科医の中には、米国をはじめ海外で活躍する人も多くなってきました。志のある学生には、そのための情報提供やアドバイスもできます」。ロールモデルになる先生方がいることで、将来設計も広がります。



米国研修の一コマ。最新の歯科医療機器に実際にふれながら学べます。